



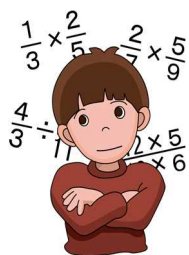
現状と課題

- ◆基礎的な計算力の定着が十分でなく、繰り上がりや繰り下がり、小数の加減やあまりが出る除法など、位取りや事後操作のある計算で間違いやすい。複数単元にわたる知識や操作が必要な問題では、思考が追いつかない。
- ◆文章読解を伴う問題では、問いの内容理解や立式に時間を要する
- ◆図形を読み解くための空間的概念や、量の概念形成が十分でない。計算前の見通しや計算後の確認も甘く、数字計算のみに終始しがちである



達成目標

- ◆基礎計算力を定着させ、計算前の見通しから計算後の確認まで確実にできるようにする。
- ◆量や単位の概念を有し、日常事象や教科書水準の内容を、正確に想像できるようにする。
- ◆算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づき、進んで活用する態度を育成する。
- ◆問題文を正しく読み取り、それを基にした立式と、根拠の説明ができるようにする。
- ◆児童個々が自身の苦手分野を把握し、定期的な点検と改善に努められるようにする。



取組の重点

- 1 算数教室・系統表の掲示・ミニプリントを定期的に活用して児童の意欲喚起につなげ、前学年までの既習事項の定着をはかる。
- 2 授業では、基礎・基本の指導と既習事項の確認後、問題解決の見通しを持たせて児童の自力解決が有効に行えるようにすると同時に、計算前の見通しや計算後のたしかめも確実にを行うよう指導する。
- 3 筋道立てて考えをまとめる力と説明する力を育成し、言語活動の充実を図りつつ、各自の考えを共有させる。
- 4 学習の振り返りを通して、理解や思考の深まりを確かめ、充実感を持たせる。
- 5 量の概念については、全校での統一指導ができるよう、キーワードや実物を児童に提示するなどの指導方法を確立させる。
- 6 他教科（国語・社会・理科・生活）との関連で、数や量の概念が随所で使われていることを意識させ、興味と概念形成の維持に努める。



学習の流れ

1 課題把握⇒焦点化

- ◇問題提示
- ◇前時の振り返り
- ◇既習事項の確認
- ◇学習課題の明確化

2 自力解決⇒個別化

- ◇見通しを持つ
- ◇既習事項の活用
- ◇思考の視覚化
- ◇具体物の活用

3 少人数学習⇒共有化

- ◇考えを整理した発表
- ◇友達の考えの理解
- ◇相互の学び合い
- ◇自分の考えの再構築

4 全体学習⇒共有化

- ◇多様な考え方の理解
- ◇比較、分類、検証
- ◇相互の深め合い
- ◇集団での課題解決

5 まとめ⇒定着化

- ◇学習の振り返り
- ◇自分の言葉でのまとめ
- ◇学習内容の一般化
- ◇適応問題による定着

学習環境の整備

- 算数コーナーや校内の掲示物の工夫と充実
- ICTの効果的・積極的な活用
- 教材教具の工夫改善
- 朝自習やチャレンジタイムの取組の工夫と充実

言語活動の充実

- 問題の読み取り活動の充実
- 考えの文字化や図表化による思考の見える化
- コミュニケーションの時間の確保と、話す・聞く視点の明確化
- 学習の流れがわかるノート指導

他教科等との関連

- 他教科や日常生活において算数の学びが生きていることの実感
- 数と計算、図形、数量関係など、他教科等への積極的な活用
- 互いのよさを認め合う道徳や特別活動との効果的な連携

家庭学習の定着

- 予習や復習など、発達段階に応じた家庭学習の習慣化
- 主体的に取り組む宿題の提示と見届け・確認
- 自主的・発展的な取組の充実
- 保護者の理解と協力